

Topics

各紙掲載記事より 95年10月～96年3月

■95年10/16 (読売夕刊) 危険『やせ願望』 札幌医科大岡野五郎助教授 (運動栄養学) がまとめたアンケート調査の結果、日本の女子長距離ランナーは「体重を減らしてタイムを縮めたい」といういぢずな願ひから、「やせ願望」が強くて体調に異常をきたしている選手が多いことがわかった。

■11/7 (朝日) 賞金の男女格差は許せない! 来年1月3日に行われる全豪オープンの賞金案を不満と、女子選手たちがボイコット運動を起こそうとしている。主催者はこのほど、現行での男女ほぼ同額の賞金総額を、来年は男女差をつける案を発表。女子の試合の入場券の売れ行きやテレビ視聴率が低いことが理由。これに対し、「時代に逆行するような大会へは出場できない」「女子の収益の少ないのは、主催者側に問題がある」と抗議している。

■11/20 (スポニチ) 岡田、世界最年長V 大ベテラン、女子プロゴルフの岡田美智子が、大正製紙エリエール女子オープンで今季初優勝を飾った。50歳312日での優勝は自らが3年前に作った記録を更新する世界最年長の優勝。「まさか自分で記録を塗り替えられるとは…。51歳の挑戦をしたい」さらなる記録更新をキッパリと誓った。

■11/23 (スポニチ) ボウリング振興に多大な功績、須田さん協会葬 心不全のため21日、療養先の米国バージニア州で須田開代子さん (57) が急死した。現役プロボウラーの一方で、ボウリング振興のプロデューサーでもあった。

■12/2 (読売夕刊) プロになりたい女たち、養成学校花盛り 氷河期といわれる女子の就職難。それと関係あるのかなのか、「プロへの近道」とゴルフの専門学校をたたく女性が増えている。競艇選手の養成学校でも、女子の希望者が急増中だ。「有名になりたい」「森口祐子さんみたいにゴルフも家事も両立したい」と、生徒たちは夢に向かってひたむきだ。

■12/2 (日経夕刊) 実業団女子陸上逆風突き快走 リストラの余波で、企業のスポーツ支援が相次いで打ち切られるなか、マラソン、駅伝など女子陸上部が疾走している。陸上は企業にとっては、比較的少ない経費で維持・運営できる。しかも、テレビ放映などを通じ、社内の活性化やイメージアップなど抜群の波及効果をもたらす。女子長距離界では企業の受け皿が広がって世界に通用する、有力選手が育ち、スポーツとしての人気も高まるという好循環が続いているようだ。

■96年1/28 (報知) 神宮球場“女尊男卑” 改装工事の進んでいる神宮球場で、男子トイレを削り、女子トイレを増やし、広くする大工事が進んでいる。女性人気を誇るヤクルトの本拠地である神宮球場、観戦に訪れる女性ファンが多い。試合中はいつも女子トイレの前は長蛇の列。そこで、「女性のニーズに合わせました」と球場長の興津隆之さん。

■3/18 (スポニチ) 美少女騎手牧原歴史的1勝 17日の中山競馬で牧原由貴子騎手 (18) が見事な逃げ切り勝ちを収め、JRA 史上初の女性騎手勝利を記録。中央競馬の新たな1ページを記すメモリアルVとなった。若者や女性ファンの大量導入に成功し、新たな盛り上がりを見せている競馬界にとってさらなる追い風が吹いた。